

男性A・Bは道の無いバリエーションルートで檜岳登山を計画。疲労で歩くペースが違い、パーティーがバラバラになった。途中で仲間を待っていたが遭難したと思い警察に通報した。

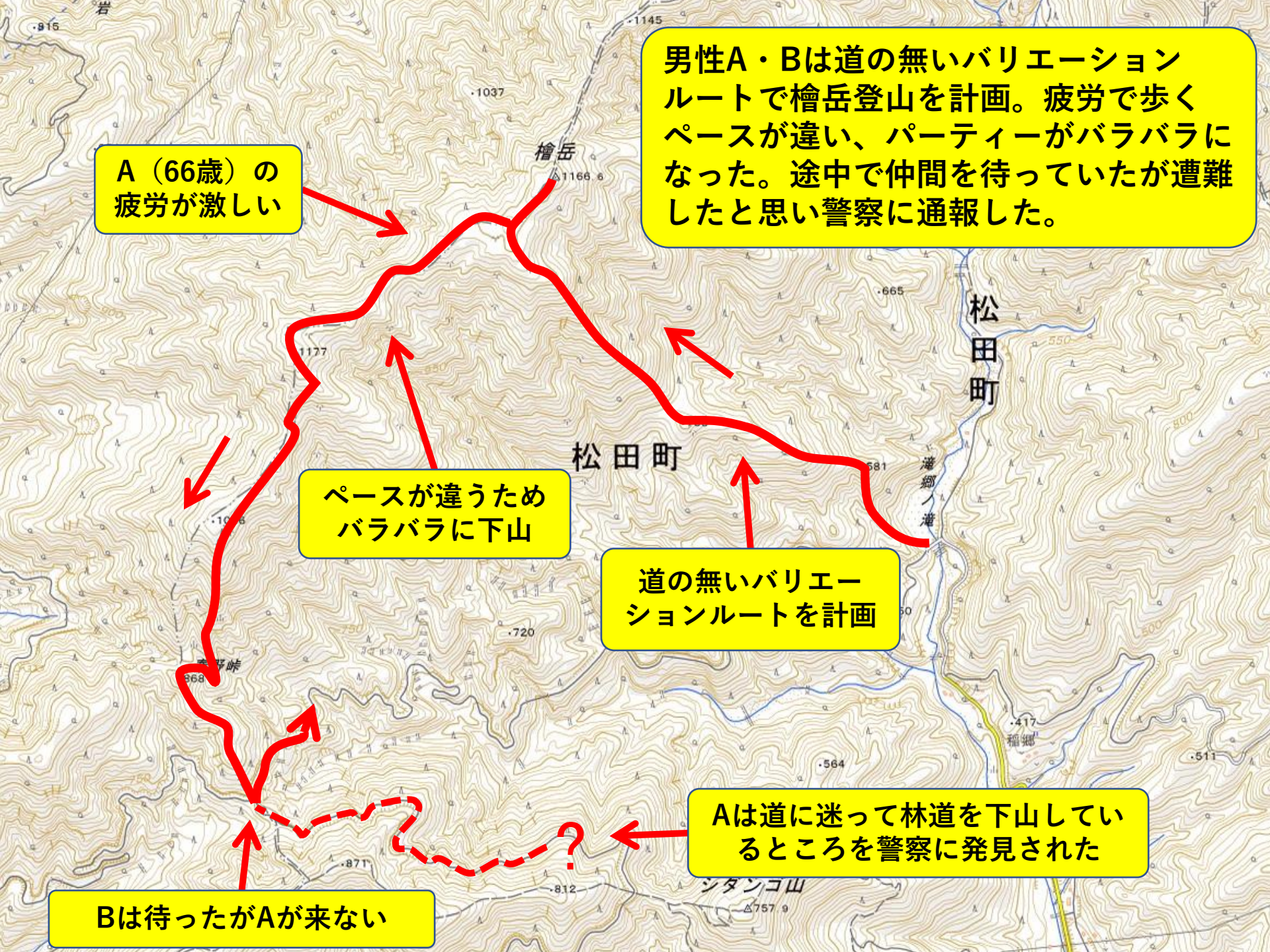
A (66歳) の疲労が激しい

ペースが違うためバラバラに下山

道の無いバリエーションルートを計画

Aは道に迷って林道を下山しているところを警察に発見された

Bは待ったがAが来ない



パーティーがバラバラになって道に迷うケースはないわけではない。しかし、パーティーがバラバラになることは登山の基本から逸脱しているといえる。

また、疲労困憊したAをかばって一緒に下ることが仲間のとる行動であるが、それをバラバラに行動するのはBはパーティー行動の基本が理解できていなかったと筆者の方も書かれている。同感である。

登山道を使わないバリエーションルートは体力、読図技術を持ってから計画してほしい。パーティーの在り方についてももう一度基本に立ち返ってもらいたいため、この遭難事例を掲載させていただいた。